



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年8月2日

上場会社名 株式会社サンリオ 上場取引所 東
 コード番号 8136 URL <http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 辻 朋邦
 問合せ先責任者(役職名) 専務取締役 (氏名) 岸村 治良 (TEL) 03-3779-8058
 四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績(2023年4月1日~2023年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	20,315	46.9	5,964	150.2	6,374	153.7	4,916	525.9
2023年3月期第1四半期	13,829	28.0	2,383	—	2,512	—	785	△68.2

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 4,494百万円(58.6%) 2023年3月期第1四半期 2,833百万円(△20.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	60.97	—
2023年3月期第1四半期	9.75	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	110,575	59,177	53.2
2023年3月期	100,704	56,295	55.6

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 58,862百万円 2023年3月期 56,005百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	15.00	—	20.00	35.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期(予想)	—	22.50	—	22.50	45.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日~2024年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	40,800	33.2	10,300	92.6	11,000	96.1	8,500	182.3	105.40
通期	84,100	15.8	17,000	28.3	18,000	31.2	12,000	47.1	148.81

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2024年3月期1Q	89,065,301株	2023年3月期	89,065,301株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	8,422,775株	2023年3月期	8,422,649株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2024年3月期1Q	80,642,580株	2023年3月期1Q	80,561,448株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
(4) 利益処分に関する基本方針及び当期の配当	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行（5月）により経済活動の正常化が進みました。また、昨年秋の入国規制の緩和以降は外国人観光客による消費も活発化しております。一方で、欧州における紛争の長期化、世界的な資源価格の上昇や為替変動による物価上昇などにより、消費者の生活防衛意識が高まることが懸念されるなど、先行きが不透明な状況が継続しております。

このような状況のなか、当社グループは2024年3月期を最終年度とする3ヶ年の中期経営計画「未来への創造と挑戦」の最終年度として、「組織風土改革」「国内外構造改革の着手・完遂」「再成長の戦略や成長市場への種まき」を3本柱とする各種施策を着実に推し進めております。

国内の店舗・テーマパークは、様々な施策が順調に進んだことに加え、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により国内客が増加するとともに、昨年秋の入国規制の緩和以降に急増した外国人観光客が加わり、客数が大幅増となったことで、売上高を押し上げました。また、国内・海外のライセンス事業は、引き続き複数キャラクター展開などの戦略的な施策が奏功し新規ライセンスの獲得に加え既存ライセンスの商品展開が増え、売上高が伸びました。

なお、サンリオファン会員向けアプリ「Sanrio+」の会員数は6月末現在で約153万人となりました。

連結営業損益に関しては、国内・海外ともに売上高が伸びたことに加え、構造改革を通じて営業費用を適正水準にマネジメントしたことにより収益性が向上した結果、大幅な増益となりました。

以上の結果、売上高は203億円（前年同期比46.9%増）、営業利益は59億円（前年同期比は150.2%増）、経常利益は63億円（前年同期比153.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は49億円（前年同期比525.9%増）となりました。

なお、すべての海外連結子会社の決算期は1月～12月であり、当第1四半期連結累計期間の対象期間は、2023年1月～3月であります。

〔報告セグメント〕

(単位：億円)

		売上高				セグメント利益（営業利益）			
		前第1 四半期	当第1 四半期	増減	増減率	前第1 四半期	当第1 四半期	増減	増減率
日本	物販その他	73	116	42	57.8%	17	43	25	145.6%
	ロイヤリティ	22	30	7	33.8%				
	計	95	146	50	52.2%				
欧州	物販その他	△0	0	0	—	△0	0	1	—
	ロイヤリティ	4	5	1	27.7%				
	計	4	5	1	28.2%				
北米	物販その他	4	4	0	13.7%	1	6	4	403.8%
	ロイヤリティ	7	14	7	96.8%				
	計	11	19	7	65.6%				
南米	物販その他	0	0	0	13.0%	0	0	0	14.9%
	ロイヤリティ	1	1	0	31.8%				
	計	1	1	0	30.4%				
アジア	物販その他	1	1	0	67.3%	10	13	2	22.3%
	ロイヤリティ	23	28	4	19.9%				
	計	25	30	5	22.2%				
調整額		—	—	—	—	△5	△4	1	—
連結	物販その他	79	123	43	55.5%	23	59	35	150.2%
	ロイヤリティ	59	80	20	35.4%				
	計	138	203	64	46.9%				

(注) 海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である日本の親会社に支払っており、それを親会社は売上高として計上しておりますが、連結消去されるた

め、上表の日本の売上高にはその相当額は含まれておりません。セグメント利益（営業利益）には反映されております。

なお、ここに示す売上高は、外部顧客に対する売上高であり、前述のロイヤリティに限らず報告セグメント間売上高は内部取引高として消去しております。

① 日本：売上高146億円（前年同期比52.2%増）、営業利益43億円（前年同期比145.6%増）

1. 国内営業本部（物販事業・ライセンス事業）

2023年4月に、シナジー効果を発揮し全社利益最適化に貢献すべく、物販事業本部とライセンス営業本部を統合し、国内営業本部に名称変更いたしました。

物販事業は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、ゴールデンウィーク前後から国内人流がさらに活発化するとともに、昨年秋以降の外国人観光客の増加により、都心や観光地の店舗を中心に客数が大幅に増加いたしました。また、過去最多となる総得票数4,448万票を記録した人気投票イベント「2023年サンリオキャラクター大賞」（4/11～5/26）は、商品やイベントをいくつかの期間に分けて展開するなど期間中の鮮度維持に努めたことが奏功し、来店促進や商品購買に大きく寄与いたしました。なお、昨年12月に閉店した「Sanrio Gift Gateアドホック新宿店」は、今年4月に近隣施設に「Sanrio新宿店」として新たにオープンし、国内外のお客様からご支持いただき連日盛況に推移しております。

ライセンス事業は、複数キャラクター戦略が引き続き奏功しており、新規ライセンシーの獲得に加え、既存ライセンシーの商品展開が増えるなど各カテゴリーが好調に推移し、売上高が伸びてまいりました。商品化ライセンスは、「2023年サンリオキャラクター大賞」と連動した商品や、エンターテイメント性やコレクション性を取り入れた菓子類などが人気を博しました。また、人気のカプセルトイや、インバウンド需要の高まりにより、お土産品も好調に推移いたしました。これらの商品は、SNSの有効活用による情報発信も奏功し、認知度が向上したことが寄与いたしました。広告化ライセンスは、顧客課題に合わせたキャラクター提案が功を奏し、外食、菓子・食品、コスメ、消耗品など様々な業態のキャンペーンで採用されました。また、キャラクターグリーティングや展示会などのイベントも好調に推移いたしました。

営業損益については、売上高の大幅増により大幅増益となりました。なお、売上増に連動し販管費も増加いたしました。コスト・コントロールが奏功し、販管費率は減少しております。

2. テーマパーク事業

サンリオピューロランド（東京都）とハーモニーランド（大分県）は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により国内客が増加するとともに、昨年秋の入国規制の緩和以降に急増した外国人観光客が加わり、両施設ともに客数が大幅に増加いたしました。

サンリオピューロランドでは、3年ぶりに同施設最大の人気エンターテイメント「Miracle Gift Parade」が6月に再開いたしました。また、キャラクターとの握手やハグも可能となり、連日多くのお客様で賑わいを見せております。人気エンターテイメントの再開により、有料席や関連商品が好調に推移するとともに、根強い人気のカチューシャやパスデー関連商品、シーズン限定商品・飲食メニューが人気を博し、客単価増にも貢献いたしました。

ハーモニーランドは、新規イベント「HAPPY EASTER（3/27～5/30）」「とっておきのRainy Day（6/2～7/11）」の上演、キャラクターグリーティングの強化が客数増に貢献いたしました。これらのイベントと連動したオリジナル商品や昨年7月に値上げした入園チケットが客単価を押し上げ、売上増に寄与いたしました。

営業損益は、両施設の売上高が大幅に増加したことにより増益となりました。

② 欧州：売上高5億円（前年同期比28.2%増）、営業利益79百万円（前年同期は営業損失63百万円）

ライセンス事業では、フランスの有名ブランドとのコラボレーションや大手アパレル企業との取り組みにより、アパレルカテゴリーが伸びてまいりました。また、フットウエアカテゴリーでは有名ブランドとのコラボレーションにてグローバル展開した『ハローキティ』のスニーカーが好調に推移し、ブランド価値向上にも寄与いたしました。デジタルカテゴリーでは、リズムに合わせて複数のキャラクターが

ダンスをしながらパレードするリズムゲームが昨年11月に配信され、認知度向上に寄与しております。『ミスターメン リトルミス』は、新規ライセンス獲得により売上高が伸長したアパレルカテゴリーや、米国の既存ライセンスと継続的に取り組んでいる玩具カテゴリーが好調に推移いたしました。営業損益は、売上高の増加に加え販管費の抑制により、黒字に転換いたしました。

③ 北米：売上高19億円（前年同期比65.6%増）、営業利益6億円（前年同期比403.8%増）

北米では、認知度及びブランド価値向上のために自社ECを有効活用するとともに、大手オンラインゲームのプラットフォームと協業することで顧客接点を増やし、エンゲージメントを高めております。また、売上高を継続的に伸ばすために主力ライセンスと中長期契約を結んでおります。

物販事業は、カメラやぬいぐるみ、コスメなどが売上を牽引した自社ECが、引き続き好調に推移いたしました。ライセンス事業は、既存ライセンスとの取り組み強化により商品展開が増えたアパレルや玩具、ヘルス&ビューティーカテゴリーが好調に推移いたしました。特に玩具カテゴリーでは、既存ライセンスの大手玩具メーカーと昨年12月に新たに中長期契約を締結し、同メーカーが持つ様々な玩具品でサンリオキャラクターが採用されております。また、フットウェアカテゴリーでは新規ライセンスの人気ブランドとのコラボが大きな話題となり、売上高の増加に加え認知度向上にも寄与いたしました。

売上高の大幅な増加により、営業利益も拡大いたしました。

④ 南米：売上高1億円（前年同期比30.4%増）、営業利益33百万円（前年同期比14.9%増）

南米全体では、ヘルス&ビューティー、バッグ、企業特販カテゴリーのライセンス事業が好調に推移いたしました。メキシコのライセンス事業では、衛生商品や香水が好調のヘルス&ビューティーカテゴリー、ハローキティカフェが人気の企業特販カテゴリーが好調に推移いたしました。ペルーのライセンス事業は、バッグカテゴリーが売上を牽引いたしました。南米では、ハローキティカフェによる認知度向上に加え、200以上のライセンスが集まるイベントの開催や展示会などへの参加を通じて、新規案件獲得が進んでおります。

営業損益については、売上高の大幅伸長により増益となりました。

⑤ アジア：売上高30億円（前年同期比22.2%増）、営業利益13億円（前年同期比22.3%増）

香港・マカオ地区は、ライセンス事業において、銀行との継続的なプロモーションにより企業特販カテゴリーが売上高を伸長いたしました。また、今年1月のコロナ規制緩和により、旧正月商品の売れ行きが好調で、特に雑貨・文具カテゴリーが売上高を牽引いたしました。

台湾は、上海のロックダウンの影響で商品開発が遅れたものの、ライセンス事業において、新規ライセンスを獲得したヘルス&ビューティーカテゴリーが好調に推移いたしました。

韓国は、前期に実施した韓国大手芸能事務所所属のアイドルグループとのコラボレーションにより、ブランド価値が向上しており、新規ライセンスの獲得に加え既存ライセンスの商品展開が拡大いたしました。ライセンス事業において、大手菓子メーカーなどの新規ライセンスを獲得したフードカテゴリー、入学入園品の品揃え・販路拡大した文房具カテゴリーが大きく伸長いたしました。

中国は、2023年1月からマスターライセンス契約先をアリババグループのアリフィッシュへと変更したことにより、ライセンス事業において、ヘルス&ビューティー、アクセサリーカテゴリーが好調に推移いたしました。また、同国では複数キャラクター展開が奏功しており、『クロミ』、『ポチャッコ』など『ハローキティ』以外のキャラクターも多く採用され、新型コロナウイルス感染症が年末年始に拡大したことにより、1月はビジネス活動が鈍化したことに加え前期のMG収入の反動がありましたが、売上高は増加いたしました。

東南アジアは、ライセンス事業において、タイ最大のコンビニエンスストアとのコラボレーションや、タイ・マレーシア・ベトナムのヘルス&ビューティーカテゴリーが売上高を牽引いたしました。

営業損益については、アジア各国における全体的な売上高の伸びが寄与し、増益となりました。

参考：海外子会社 売上高・営業利益（現地通貨ベース：連結消去前個別財務諸表数値）

	売上高			営業利益
	ロイヤリティ	物販	計	
ドイツ 千EUR	2,782	71	2,854	229
(前年同期比増減%)	22.7	322.4	24.9	—
英国 千GBP	1,100	—	1,100	396
(前年同期比増減%)	1.8	—	1.8	107.4
北米 千USD	10,696	3,818	14,515	4,597
(前年同期比増減%)	73.0	1.6	46.0	342.1
ブラジル 千BRL	6,277	609	6,886	1,317
(前年同期比増減%)	14.8	20.7	15.3	0.4
チリ 千CLP	—	5,081	5,081	△467
(前年同期比増減%)	—	△9.5	△9.5	—
香港 千HKD	12,050	9,923	21,974	4,874
(前年同期比増減%)	12.4	75.8	34.3	107.2
台湾 千NTD	69,767	4,352	74,119	18,349
(前年同期比増減%)	△3.7	30.2	△2.2	△14.8
韓国 千KRW	5,609,431	89,053	5,698,484	2,208,404
(前年同期比増減%)	158.5	158.3	158.5	346.7
中国 千CNY	76,830	44,398	121,229	44,031
(前年同期比増減%)	△3.7	253.2	31.2	△4.9
シンガポール 千USD	1,941	353	2,294	471
(前年同期比増減%)	8.7	32.5	11.8	57.0

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は1,105億円前で前連結会計年度末比98億円増加しました。資産の部の主な増加項目は現金及び預金95億円です。

負債の部は513億円前で前連結会計年度末比69億円増加しました。主な増加項目は支払手形及び買掛金4億円、有利子負債（1年内償還予定社債を含む）60億円です。純資産の部につきましては、591億円と前連結会計年度末比で28億円増加しました。主な増加項目は利益剰余金33億円、為替換算調整勘定4億円です。主な減少項目は退職給付に係る調整累計額11億円です。自己資本比率は53.2%で前連結会計年度末比2.4ポイント減少しました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結会計期間におきまして、国内の店舗・テーマパークでは、社内施策が順調に進んだことに加え、国内客・外国人観光客による人流の活発化に伴い客数が大幅に増加し、売上高が期初計画を上回って推移いたしました。ライセンス事業におきましても、国内・海外ともに引き続き複数キャラクター展開などの戦略的な施策が奏功し、売上高が期初計画を上回りました。また、当第1四半期連結累計期間の営業利益は、国内・海外ともに売上高が期初計画を大幅に上回って進捗したことに加え、中期経営計画に沿った構造改革の諸施策を実行し、営業費用を適正水準にマネジメントしたことで収益性が向上したため、第2四半期連結累計期間における連結業績予想の数値を上回る水準で着地いたしました。第2四半期連結会計期間以降につきましても計画を見直した結果、2023年5月12日に公表いたしました2024年3月期の第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想を修正するものであります。

詳細につきましては、本日公表いたしました「2024年3月期第2四半期累計期間及び通期の連結業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

今後におきましても、経済環境や市場動向を注視し、業績予想の適切な開示に努めてまいります。

(参考) 海外地域別損益～第1四半期の3期推移

(単位：百万円)

地域		外部顧客に対する売上高					営業利益				
		2021/6	2022/6	増減率 (%)	2023/6	増減率 (%)	2021/6	2022/6	増減率 (%)	2023/6	増減率 (%)
欧州	ドイツ	228	296	30.0	399	34.6	△97	△70	—	32	—
	英国	136	127	△6.4	144	13.3	27	6	△75.3	46	586.7
	小計	364	424	16.4	544	28.2	△69	△63	—	79	—
北米	米国	589	1,158	96.6	1,919	65.6	△175	121	—	613	403.8
南米	ブラジル・チリ	77	131	70.1	171	30.4	7	29	268.0	33	14.9
アジア	香港	369	277	△25.0	373	34.8	117	58	△50.4	101	73.2
	台湾	263	306	16.3	311	1.5	75	90	19.3	80	△10.9
	韓国	108	213	96.4	591	176.8	5	48	735.5	231	380.1
	中国	997	1,483	48.6	1,497	1.0	429	853	98.8	851	△0.2
	シンガポール	—	234	—	298	27.0	—	35	—	62	78.7
	小計	1,740	2,515	44.6	3,072	22.2	628	1,085	72.7	1,327	22.3
合計		2,771	4,230	52.6	5,707	34.9	391	1,172	199.8	2,053	75.1

(4) 利益処分に関する基本方針及び当期の配当

当社は株主に対する利益還元を経営の重要事項と考えております。最近の業績動向を踏まえ業績予想を上方修正した結果、第2四半期連結累計期間において85億円の親会社株主に帰属する四半期純利益、通期において120億円の親会社株主に帰属する当期純利益を計上する見込みとなりました。そのため、第2四半期末の配当に関しましては前回予想の1株当たり17.5円から5円増配の1株当たり22.5円に、期末配当に関しましては前回予想の1株当たり17.5円から5円増配の1株当たり22.5円に、それぞれ修正させていただきます。これにより年間の1株当たり配当金は前回予想の1株当たり35円から10円増配の1株当たり45円となる予定です。

今後も株主に対する継続的な利益還元のため、業績向上に努めてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	52,008	61,580
受取手形	313	238
売掛金	8,392	8,066
商品及び製品	3,894	4,624
仕掛品	299	419
原材料及び貯蔵品	348	262
未収入金	441	424
その他	1,210	1,276
貸倒引当金	△156	△157
流動資産合計	66,752	76,736
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,296	3,220
土地	6,140	6,146
その他（純額）	3,914	3,797
有形固定資産合計	13,350	13,163
無形固定資産		
投資その他の資産	2,244	2,288
投資有価証券	9,720	9,575
繰延税金資産	145	81
その他	8,816	9,044
貸倒引当金	△332	△317
投資その他の資産合計	18,350	18,383
固定資産合計	33,946	33,835
繰延資産	5	4
資産合計	100,704	110,575
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,074	4,498
短期借入金	9,086	10,454
未払法人税等	1,563	1,618
契約負債	4,062	4,431
賞与引当金	638	987
株主優待引当金	39	33
ポイント引当金	8	7
その他	8,273	6,012
流動負債合計	27,746	28,044
固定負債		
社債	141	141
長期借入金	10,378	15,247
退職給付に係る負債	1,020	1,076
その他	5,121	6,889
固定負債合計	16,662	23,353
負債合計	44,408	51,398

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	3,468	3,468
利益剰余金	56,211	59,515
自己株式	△19,528	△19,528
株主資本合計	50,152	53,455
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	383	684
繰延ヘッジ損益	2	-
為替換算調整勘定	1,707	2,147
退職給付に係る調整累計額	3,758	2,574
その他の包括利益累計額合計	5,853	5,407
非支配株主持分	290	315
純資産合計	56,295	59,177
負債純資産合計	100,704	110,575

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	13,829	20,315
売上原価	3,740	5,388
売上総利益	10,088	14,927
販売費及び一般管理費	7,705	8,962
営業利益	2,383	5,964
営業外収益		
受取利息	78	186
受取配当金	40	35
為替差益	166	118
投資事業組合運用益	-	39
その他	61	112
営業外収益合計	347	492
営業外費用		
支払利息	33	40
支払手数料	34	34
投資事業組合運用損	132	-
その他	17	7
営業外費用合計	218	82
経常利益	2,512	6,374
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	249	-
関係会社清算益	-	537
その他	2	-
特別利益合計	252	537
特別損失		
固定資産処分損	0	0
投資有価証券売却損	-	12
投資有価証券評価損	254	-
減損損失	1	-
特別損失合計	256	13
税金等調整前四半期純利益	2,507	6,898
法人税、住民税及び事業税	373	1,532
過年度法人税等	1,297	-
法人税等調整額	37	426
法人税等合計	1,708	1,958
四半期純利益	799	4,939
非支配株主に帰属する四半期純利益	13	23
親会社株主に帰属する四半期純利益	785	4,916

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	799	4,939
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	146	300
繰延ヘッジ損益	1	△2
為替換算調整勘定	1,828	440
退職給付に係る調整額	57	△1,183
その他の包括利益合計	2,034	△445
四半期包括利益	2,833	4,494
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,802	4,470
非支配株主に係る四半期包括利益	31	24

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	9,599	424	1,158	131	2,515	13,829	—	13,829
(うちロイヤリティ売上高)	(2,244)	(425)	(724)	(122)	(2,397)	(5,913)	(—)	(5,913)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	1,665	3	5	2	240	1,917	△1,917	—
(うちロイヤリティ売上高)	(1,470)	(0)	(—)	(—)	(△0)	(1,470)	(△1,470)	(—)
計	11,264	427	1,164	134	2,755	15,746	△1,917	13,829
セグメント利益又は損失(△)	1,779	△63	121	29	1,085	2,951	△568	2,383

- (注) 1. セグメント利益又は損失の調整額 △568百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計		
売上高								
外部顧客への売上高	14,607	544	1,919	171	3,072	20,315	—	20,315
(うちロイヤリティ売上高)	(3,003)	(543)	(1,425)	(160)	(2,875)	(8,009)	(—)	(8,009)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	2,575	10	14	5	899	3,505	△3,505	—
(うちロイヤリティ売上高)	(2,412)	(1)	(—)	(—)	(—)	(2,413)	(△2,413)	(—)
計	17,183	554	1,934	177	3,972	23,821	△3,505	20,315
セグメント利益	4,370	79	613	33	1,327	6,424	△460	5,964

- (注) 1. セグメント利益の調整額 △460百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。